



岡山城。かつて黒漆塗りだった天守の外壁から「烏城」とも呼ばれる。

真庭市	人口(令和2年国勢調査): 4万2725人 面積(参考): 828.53平方キロメートル
連携都市	
岡山市	人口(令和2年国勢調査): 72万4691人 面積(参考): 789.95平方キロメートル
倉敷市	人口(令和2年国勢調査): 47万4592人 面積(参考): 356.07平方キロメートル
西粟倉村	人口(令和2年国勢調査): 1398人 面積(参考): 57.97平方キロメートル



地域特性と課題

本事業は、真庭市(代表)、岡山市、倉敷市、西粟倉村の3市1村の広域連携モデル事業である。

《真庭市》

真庭市は、岡山県の北部、鳥取県境にあり、2005年3月31日に9つの町村が合併して誕生したまちで、森林が面積の約80%を占める典型的な中山間地であり、古くから木材の産地として知られている。

《岡山市》

岡山市は、中国・四国地方のクロスポイントに位置し、広域高速道路網、鉄道網、航空網などの交通網が整備された都市で、

《倉敷市》

倉敷市は、県西南部に位置し、幹線道路・鉄道等の広域交通網が整備され、大型商業施設、三次救急指定病院、高等教育機関等、高次の都市機能が集積する中核市である。

《西粟倉村》

西粟倉村は、岡山県の最東北端に位置し、峡谷型の地形で、村の中心を南流する吉野川沿いに集落が点在している。昭和・平成の合併には参加せず、単独自治体として自主・自立の道を選択し、村の優位な基盤を活かした「上質な田舎」の実現に向けて、挑戦を続けている。

世界に誇る町並みや伝統文化を活かしたまちづくりを進めている。

3市1村の共通課題

3市1村はともにSDGs未来都市に選定されている。

真庭市、岡山市、倉敷市、西粟倉村の各市・村ともにHPを活用した情報発信や連携した普及啓発活動等は実施しているが、さらに取り組みをわかりやすく伝える手段として「見える化(体感)」できる仕組みが必要との共通した思いがあり、今回のモデル事業連携のきっかけとなった。(後述)

取り組みの概要

広域連携によるスケールメリット(取り組みの多様性、選択肢増、ターゲット層増、発信力強化など)を活かし、そのすべてを体感できる岡山県版「SDGs体感ツアー」を実装することで、アフターコロナ・ウィズコロナにおける観光振興へつなげるとともに、都市規模や地域性に応じた地域課題解決の仕組みを体感型で発信(見える化)し、ローカルSDGsの取り組み促進を図ることを目標とした。

真庭市が中心となった経緯は、従来からバイオマス利用が盛んで、真庭市が行っていた既存のバイオマスツアーを通じて、ほかの市とも連携しやすいこと、また、企業との連携による自治体負担の軽減できるとともに未来都市の役割も担えると考え、広域連携SDGsモデル事業に取り組みに至った。



3

2 みずしま滞在型環境学習コンソーシアム
3 ありがとうファーム



2

SDGs 推進に向けた取り組み

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』の実装

Sustainable Value Creation Tourの内容(4コース)

<p>①自ら取り組み環境保全 2022年12月1日(木) 日帰り</p> <p>「児島」の繊維産業の歴史背景や「岡山市」の廃棄物の行方を見学。民間企業を取り組む、環境保全活動を巡るコース</p>	<p>②脱炭素社会の実現に向けて 2022年12月2日(金) 日帰り</p> <p>木質バイオマスの先進地と注目されている「真庭市」と「西粟倉村」を1日で見学できるコース</p>	<p>③海と陸のつながり 2022年12月10日(土) 日帰り</p> <p>瀬戸内海のごみの現状と回収状況を見学。真庭市では里山の環境保全活動を見学しながら実感いただけるコース</p>	<p>④心地よい居場所 2022年12月14日〜15日1泊2日</p> <p>2日間で4都市を巡る企画。社会課題解決に向けた多様な取り組みを体感するコース</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------



5



4

4 西粟倉百年の森林共同組合
5 倉敷デニム工場



1

1 真庭バイオ液肥で育った野菜収穫



interview



代表自治体の真庭市総合政策部総合政策課未来都市（SDGs）推進室室長 森田 学さん

SDGsに向けた真庭市、岡山市、倉敷市、西粟倉村の連携による取り組み

取り組みを実施するに至った経緯

岡山県版「SDGs 体感ツアー」を実装することで、アフターコロナ・ウィズコロナにおける観光振興へつなげられると考えました。真庭市は、バイオマス利用が盛んなことから、従来よりバイオマスツアーを市が積極的に進めてきました。こうした取り組みを通じて、他の市とも連携できるのではないかと考え、まずは真庭市が中心となって実施しました。加えて、企業とも連携を進めることで、自治体負担も軽減できるとともに、未来都市の役割も担えると考え、応募しました。

広域連携のステークホルダー間の連携の在り方について

真庭市（代表）、岡山市、倉敷市、西粟倉村の4都市で、「岡山SDGs未来都市連絡協議会」を設置し、これを推進母体とし、事業の検討推進を行いました。具体的なツアー開発・運営については、旅行

業者及び地域DMOが担い、自走化を見据えた体制とし、4都市も、構成メンバーである岡山県内の産官学金言の関係団体で構成する「おかやまSDGs研究会」がオブザーバーとして、客観的な視点で事業推進への助言等行っていたできました。

さらに、サステナブル観光の専門家（大学）も外部アドバイザーとして連携いただき、サステナブル観光人材の育成支援体制の構築も行いました。真庭市から各ステークホルダーに呼びかけ、連携の場が構築でき、前向きで協力的に進められました。

今後どのように展開していくか

アフターコロナ、ウィズコロナにおける新たな観光振興策とSDGsの取り組みを体感できる仕組みをリンクさせ、「Sustainable Value Creation Tour」(SDGs見える化(体感)ツアー)の構築を行い、地方創生

SDGsの横展開へ繋げるという目標にしています。今後、開発したツアーを旅行業者（両備ホールディングス(株)及び(株)JTBがツアー商品として販売を行い、地域DMOである(一社)真庭観光局などが連携しながら事業スキームを構成し、対象地域（岡山県内外から顧客を確保しながら、その収益において事業の自立化を実現するよう展開して参ります。

他地域への展開見込みについて

ツアーについては、県内の4自治体以外の自治体の方の参加もあり、SDGs未来都市に対する関心も高まってきていると感じています。4自治体が連携していることをHPなどにより、効率的に発信していきたいと思えます。また、体感ツアーには、一般の方の参加者が多かったことから、新たな観光振興策としての可能性が十分あると考えています。

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』

● コース設定想定案

(脱炭素コース)

- 官民連携による「脱炭素」の取組現場を周遊
- 木質バイオマスエネルギー利用(真庭市)
- 太陽光等再生可能エネルギー利用(岡山市)
- 森林管理による森林活用(西粟倉村) など
- ※ターゲット例: 自治体、企業、環境団体など

(森林・林業・木造建築コース)

- 森林管理から木材利活用の取組現場を周遊
- 山林～原木市場～製材所～製品市場(西粟倉村、真庭市)
- 木造建築の現場(試験場等含む)(西粟倉村、真庭市)
- 木質バイオマス利用現場(真庭市、西粟倉村)
- ※ターゲット例: 自治体、企業、林業・木材団体、エネルギー関係事業者、木造建築・木工関係者、研究者・大学生など

(市民団体活動コース)

- 地域で課題解決に取り組む施設や団体を訪問
- 公民館等での活動団体の取組(岡山市、倉敷市)
- 岡山ESDプロジェクトの活動(岡山市)
- 防災・災害対応の取組(倉敷市)
- ※ターゲット例: 自治体、NPO、市民団体・個人、小中高校、大学生など

(サステナブルコース)

- ものづくり、文化・芸術、環境、教育、町並み保存、暮らしなど様々な分野におけるサステナブルな取組を行っている企業・団体等の取組現場を周遊
- 文化芸術拠点(岡山市、倉敷市、真庭市)
- 資源循環の取組体験(倉敷市、真庭市、西粟倉村)
- 移住定住の仕掛け体感 など(真庭市、西粟倉村)
- ※ターゲット例: 自治体、テレワーク等検討企業、移住定住検討者など

